

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号	52
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標 学校教育方針	<p style="text-align: center;">知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(1) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(2) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(3) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
--------------------	--

2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>① 本校の学習指導に対しては、生徒からの評価はほとんどの項目で評価はよい。</p> <p>② 昨年同様、個々の能力に応じた指導に関してやや評価が低い。(保護者)</p>
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>① 単位制を有効活用して、基礎・基本を徹底重視した「分かる授業」と、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てるための「授業改革」を推進し、全ての生徒の進路目標実現を図る。</p> <p>② 中学校生徒及び保護者への広報活動を積極的に行う。</p>
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>① 教育系学会の動向や報告を参考に新旧の授業研究を行い、各教科会で効果的な授業法を開発し評価検討する。これらの情報を教育課程や学習指導の委員会で報告・共有し研究を進める。</p> <p>② 教務部企画を中心に、体験入学やオープンキャンパス、管理職の中学校訪問、「中津高校だより」の配付により、中学校への広報活動を実践する。</p>

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
<p>① 生徒による授業評価、管理職や教員相互の授業参観による授業研究を基に、授業技術力向上や内容の精選等の授業改善に取り組んだ。</p> <p>② 定期試験や模擬試験の結果分析や面談、日常生活観察を通して、生徒の多面的理解を図った。</p> <p>③ HPの更新をこまめに実施し、広報活動に努めた。</p>	<p>① 教員が意欲的かつ継続的に授業改善に取り組み、生徒の基礎基本の確実な定着を支援できたかに重点をおいて、管理職評価や教員の自己評価、及び生徒の授業満足度を基準とした。</p> <p>② 進路結果分析により、生徒が進路希望を達成する科目選択が図れ、進路実現ができたか。</p> <p>③ 中学生の志願動向調査(年3回)で確認。</p>

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 全教員が、生徒による授業評価を実施し、どの程度主体性をもって授業に取り組めたかを確認した。また、課題解決のための新しい授業展開の開発や授業改善に取り組んでいる。	① 生徒・教師の授業評価等	A (B) C D
② 体験入学やオープンキャンパスを実施した。	② 中学生のアンケート	A (B) C D
11 成果課	○ 多様な選択科目や習熟度別授業が実施できている。(生徒と教員による自己評価より) ○ 授業に関する工夫改善の効果を、教師間の相互交流が進んでいる。また他校への視察や研修会への積極的な参加を通して、変革期に対応した研究が進んでいる。	総合評価 (A) B C D (A) B C D

題	(教科研修会、授業アンケートより) ● オープンキャンパスの変更が中学校に上手く伝わらなかった。 (教頭中学校訪問より)	A (B) C D
12	来年度に向けての改善方策案 ① 生徒ファーストの授業展開を心掛け、授業後の家庭学習の時間が増えることを目指す。 ② 学年会や学習指導委員会を活用し、個の能力に合わせた指導を強化する。 ③ 他教科間の授業研究と連携を強化することにより、新しい観点による授業の質的向上を図る。 ④ 体験入学やオープンキャンパスの教科を含め、中学校への広報をより充実させる。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月5日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動はどのような学力と結びついていくのか？外国人就労者が増えると多文化共生の中でリーダーシップをとれるか、ということもこれからは大切なテーマになるかもしれない。 ・10年後・20年後を見据えての指導ということでありがたい。域学連携はぜひ進めてほしいことである。 ・今の生徒は真面目。もう少しはじめてもいいのと思うこともある。生徒には、3年間で打たれ強さも身につけてほしい。先生方には分かりやすいしかり方を工夫していただければ。全日制については、数年度を見越してやっておられということでありがたい。
--

I 自己評価

1	学校教育目標 学校教育方針	知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。 (1)「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。 (2)「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。 (3)「正義を希求し、真理を愛する」精神を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。
2	評価する領域・分野	◇生徒指導
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	① 生徒のアンケートでは「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」の結果で、「あてはまる・まああてはまる」が91%と昨年と同じような結果となった。また、保護者アンケートでは「学校はいじめや差別を許さず、厳しく対応している」について「よくあてはまる・ややあてはまる」の合計が69%となっている。これは「わからない」が27%を占めたための結果である。他のアンケートでも「わからない」が20%を超えているものが3つある。そのため保護者に対して引き続き教職員で情報共有し、助け合いながら、生徒支援をしていきたい。ただ、「体罰の防止について」で生徒・保護者ともに数%の者が「あまりあてはまらない」と回答している。体罰は確認できていないが、教職員の言動についてはさらなる注意が必要である。 ② 身だしなみ指導については、5%程度の保護者からは評価されていないのが実情である。身だしなみや挨拶などの基本的な生活習慣について、生徒自らが自分自身を律する「自律」が徹底されるような支援をしていきたい。

<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 学習・部活動・学校行事・その他の特別活動にしっかり参加し、優先順位を付けて行動できるようにさせる。自主・自立を促す。 ② 校内での身だしなみは落ち着いてきたので、今後もこれが継続するよう、身だしなみ指導・登校指導は継続して実施する。また、校外についても気を配るよう努める。 ③ 地域との連携・関係を昨年度以上に築き上げていく。そのためにもCCC活動の活用や地域に広がる自主的な生徒会活動・委員会活動を展開する。また、特別支援学校との交流も検討したい。 ④ 本年度も生活委員会が作成した「スマホ朝電源 OFF キャンペーン」を実施した。生活委員会・生徒会を中心に啓蒙活動を活発にさせたい。危険な歩きスマホを自重するように指導していきたい。 ⑤ 問題行動、いじめ、不審者等様々なトラブルに関する事象の未然防止に努める。 ⑥ 全職員が共通の課題を認識し(共通認識)、あらゆる場面で助け合いながら(協同体制)、指導・支援する。 ⑦ 問題を抱える生徒や保護者への初期対応を迅速に行う。早期の家庭訪問を躊躇しない。</p>	
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>① 学年会や各分掌との連携の強化 ② 全職員が共通認識し、協同体制で指導・支援できる体制強化</p>	
<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	
<p>① 自主性を重んじた活動や各種委員会の活性化につながる活動支援(CCC活動の推進) ② 学年と連携した身だしなみ指導 ③ 教育相談の充実</p>	<p>① 諸活動参加者の感想、生徒の実態を観察 ② 外部アンケートによる実態把握 ③ 迷惑調査など生徒へのアンケートによる実態把握</p>	
<p>8 取組状況・実践内容等</p>	<p>9 評価視点</p>	<p>10 評価</p>
<p>① 委員会活動の活発化及びCCC活動により地域貢献活動を含めたボランティア活動が昨年度より広がりを見せ始めた ② MSリーダーズによる啓発活動 ③ グループディスカッションを中心とした、自己啓発力・行動力を磨く「ひびきあいの日」実施 ④ SCによるカウンセリングと事後指導</p>	<p>① 参加状況、活動後の生徒の様子 ② 参加状況、活動後の生徒の様子 ③ アンケート結果、態度 ④ 未然防止、問題解決</p>	<p>A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D</p>
<p>11 成果課題</p>	<p>○ CCC活動により、地域貢献を意識したボランティア活動に積極的に参加する生徒が少しずつ広がってきている。 ○ 生徒がより主体的に委員会活動などの特別活動に関わることができるようになりつつある。具体的には、生活委員会が授業での挨拶のさらなる向上を呼びかけたり、生徒会役員が生徒昇降口で朝の挨拶運動を自主的に実施した。 ○ 昨年に引き続き、「ひびきあいの日」に3学年を混ぜた縦割りのグループでのグループディスカッションを実施した。生徒のアンケート結果もよく、異なる学年の意見を聴いたり、先輩のすごさを感じることができ、中津高校がより良いチームとなる一つの方法であり、5月に旭陵祭に関する話し合いも昨年度に引き続き全校体制で実施できた。 ● 身だしなみは落ち着いてきてはいるが、中には気になる生徒もいる。一人一人が中津高校の代表としての立ち居振る舞いがどこまでできるかが今後の大きな課題の一つである。 ● SNSを含めた携帯(スマホ)使用に関するマナーについては事あるごとに指導していきたい。 ● 勉強と部活動の両立は言うまでもないが、3年間のうちに何か一つ自分の視野を広げるために学校外の活動に参加するような意識づけをしているが、一部の生徒への広がりを感じるが全体へ浸透は感じられない。自分の可能性を広げることは将来の可能性へとつながるので、全体へ広がる方法を模索していきたい。</p> <p>総合評価 A (B) C D</p>	

12 来年度に向けての改善方策案

- ① 生徒がより積極的に様々なことを企画立案できる環境を作り、リーダーの育成という観点を重点課題として委員会活動を引き続き充実させる。
- ② 生徒がより積極的に様々な企画に参加し、自己有用感を味わえるような特別活動を実施することを継続する。(CCC部の活用)
- ③ SNS等携帯(スマホ)の有効な使用方法を生徒たちに考えさせる。
- ④ 一人一人が中津高校の代表であるという自覚をもって生活させる。
- ⑤ 特別支援教育と教育相談を上手に峻別し、様々な生徒に対応するための教育相談体制をより充実させるよう検討し、教員研修を実施する。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月5日

【意見・要望・評価等】

- ・いじめや体罰に関する調査項目で、そういうことが完全にないという数字になっていないことが気になる。「わからない」でさえゼロになるのが理想だ。
- ・アンケート結果について、生徒会の評価が良くないが？ → 毎年同じことをするわけではないので、今年度の旭陵祭での活動が他の生徒には見えづらかったかもしれない。教員サイドからの視点ではよくやってくれていたと思う。
- ・地域とつながることは良いこと。引き続き積極的にCCC活動を！

I 自己評価

<p>1 学校教育目標 学校教育方針</p>	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(4) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(5) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(6) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇進路指導</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>① 「本校では生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」(生徒の高評価 90%)…引き続き、時機を逃さずに進路情報を提供していきたい。</p> <p>② 「本校では生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」(生徒の高評価 88%)…生徒一人一人に対するより具体的な指導がさらに必要とされている。</p> <p>③ 「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」(保護者の高評価 95%)…年8回の「保護者のための進路サポート勉強会」等の開催が高い評価を得ている。</p> <p>④ 「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる」(保護者の高評価 88%)…生徒一人一人に対するより具体的な指導がさらに必要とされている。</p>
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 個々の生徒が自己を正しく理解し、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるよう、助言や援助に努める</p> <p>② 個々の生徒の特性等を的確に把握し、望ましい職業観を育むとともに、適切な情報を提供し、計画的な進路(人生)設計の補助に努める。</p>
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>① 学年会、教科会、教務部との連携と進路研修会の充実</p> <p>② 進路指導部を中心とした学習効果や学力の分析</p>

③ 前年度3年学年会からの引き継ぎの充実と資料の活用		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 進路指導及びキャリア教育において進路指導部がイニシアティブを取り、次年度に引き継がれる体制作り ② 進路プログラムの充実 ③ 効果的な補習、模試の計画と実践、評価 ④ 進学情報の分析と提供 ⑤ 進路判定会議の充実	① 各種事業実施後のアンケート集約や反省の分析、活用方法 ② 生徒の進路結果やその満足度（含む追跡調査） ③ 教員側からみた一人一人の生徒の進路結果の分析 ④ 学年会や他の分掌からの意見 ⑤ 進路結果と判定会議の検証・分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 1年生秋季研修、1年生企業見学、2年生出前講座、各種進路講話、弁論大会 ② 土曜補習、サテライン講座、夏期集中補習、センター試験演習 ③ 大学判定会議、就職支援、羅針盤発行、インターンシップ ④ 保護者を対象とした講演会、勉強会	① 教師・生徒の反省等 ② 模試成績の判定等 ③ 進路情報の活用等 ④ 保護者との連携	A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
10 成果課題	○1・2年生の総合的な学習の時間における取り組みが充実している。 1年生では企業見学や秋季研修を単発の行事で終わらせず、事前学習で大学教授に来ていただいたり、事後学習でポスターセッションをおこなったりするなど丁寧な取り組みができた。また、その学習の過程で考えたことが、後半の弁論大会のテーマへとつながっている。2年生でも、出前講座を弁論ゼミが始まる前に設定し、弁論ゼミへの意識づけが明確にできた。 ○中津川市などとの「域学連携事業」に延べ数十人の生徒が参加した。地元地域のことを考える良い機会であり、来年度も積極的に進めたい。なかには、推薦入試で地域政策系の学部合格した生徒もいた。 ●1年生では、新たにポートフォリオを残していかなければならなくなった。本校では「Japan e-Portfolio」に直接入力する方法で指導しているが、学校内で入力できる時間がほとんどなく、十分に入力できていない。受験への対応だけでなく、個人の振り返り学習としての意味合いもあるため、ポートフォリオの運用の仕方を再度検討しなくてはならない。	
11 来年度に向けての改善方策案	① より効果的な補習システムや模試の活用を研究する。…「スタディサプリ」などの活用。 ② 全職員による情報の共有や進学支援の一層の体制作りを進める。 ③ 新テストを見据えて、各教科における授業や課題の見直し、他教科との交流、模試のやり直し指導などを通して、より生徒に力をつけさせるにはどうしたらよいか研究する。 ④ 保護者との連携を深め、よりニーズにあった取り組みを行うことで、生徒・教員・保護者が一体となった進路指導を行っていききたい。 ⑤ 総合的な学習の時間における弁論学習の充実。 ⑥ 地元地域と連携し、地元の課題を考え、将来的に地元で貢献できる人材を育成する。 ⑦ ポートフォリオの運用・活用方法を確立したい。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月

5日

【意見・要望・評価等】

- ・ 弁論大会の発表の仕方を今一度考えても良いのではないかと。弁論だけの発表があっても良いし、パフォーマンスをする生徒がいても良いと思う。
- ・ 新テストに向けたプレテストの評価を聞きたい。
- ・ e-ポートフォリオについては大学の姿勢も問われているのかと考える。
- ・ 地域貢献活動はどのような学力と結びついていくのか？外国人就労者が増えると多文化共生の中でリーダーシップをとれるか、ということもこれからは大切なテーマになるかもしれない。
- ・ 大学等へ進学した後に挫折感を味わう生徒もいるかもしれない。そういう生徒に対して、挫折した後に立ち上がることのできる力をつけてほしい。